



自活だより



令和3年度 鹿児島聾学校
自立活動係

今年も残すところわずかとなりました。今年、どんな一年でしたか。丑年の今年を振り返って、一年間のまとめをしましょう。

冬場の空気電池の利用について

冬場の寒い時期は、化学反応で発電を行う空気電池にとって苦手な季節です。冬になると電池の寿命が短くなったり、性能が低下したりすることもあります。

◎ 電池交換のときに、少し手の平で電池を暖めましょう。

空気電池は、化学反応により発電しますが、温度が低いと、発電が安定するまで数分程度の時間がかかることがあります。室内でも場所によっては、温度が低いことがありますので、シールを剥がし、少し手の平で暖めてから交換すると、発電の安定が早くなります。

◎ 外出時には、寒さ対策にも気を付けましょう。

発電開始後の電池の安定した動作にも、温度が影響します。耳掛け式の補聴器や人工内耳は、本体が直接外気に触れやすく、寒い地域では性能に影響が出ることがあります。帽子などで、耳を被うように装用すると、電池の温度低下を押さえることができます。冬でも汗カバーを付けましょう。



◎ 定期的に部屋の空気の換気をしましょう。

空気電池に利用される電解液は、空気中の二酸化炭素の濃度が高いと劣化が早くなり、寿命が短くなります。

部屋を閉め切った状態で、石油ストーブ・ガスストーブ、

ファンヒーターを利用すると、呼吸気と合わせ、部屋の二酸化炭素濃度が高くなります。

電池のためにも、健康のためにも、定期的に部屋を換気しましょう。

◎ 電池を乾燥ケースの中に入れてないようにしましょう。

空気の乾燥も空気電池の寿命に影響を与えます。補聴器や

人工内耳を乾燥ケースに保管する際は、空気電池を補聴器や人工内耳から外し、穴の開いた方を下にして、できるだけ空気に触れないようにして保管しましょう。



～夏休みや冬休みに補聴器店や病院へ行きましょう～

補聴器や人工内耳に大きな故障がなくても、定期的に親子で一緒に補聴器店や病院でみてもらうことで、学校卒業後、自分で補聴管理する習慣がついていきます。ぜひ、冬休みを利用して電池や乾燥剤を買ったり、メンテナンスをお願いしたりしに行きましょう。